

# 講習を受講したことのない保育士のための救命救急法 Ver.1.0

© 2011/作成・提供: 保育園心理士協会



- ☑ 1分でも早い発見と行動
- ☑ 迅速な119番通報
- ☑ つよく胸を押し続けること
- ☑ 救急車をスムーズに誘導する
- ☑ 救急隊に引継ぐまで止めない
- ☑ できたこと、できないことの報告
- ☑ 子どもの命と親の心のケア

以下の1つ以上に該当する保育園職員さんは読んで下さい

- 1. 1年以内に救命救急法の講習会を受けていない
- 2. 救命救急法の訓練用マネキンに触れたことがない
- 3. 人工呼吸をすることに自信がない
- 4. 職場内で救急活動について話し合ったことがない
- 5. 子どもの命を救わなければいけないと考えている

いざというとき困らないために今、確認をしましょう

- 1. 失敗を失敗として隠すことなく報告しあえる雰囲気がある
- 2. 何をあいても子どもの命が最優先される体制である
- 3. 緊急時対応マニュアルに災害避難以外の項目がある
- 4. 緊急時対応マニュアルは1年以内に更新されている
- 5. 『119番』通報する職員間の伝達経路が共有できている
- 6. 緊急時の連絡用に携帯電話の携帯が認められている
- 7. 緊急時にあなた自身の判断で119番通報ができる
- 8. 保育園の所在地を第三者に分かりやすく案内できる
- 9. 心臓は「胸の真ん中にある」ことを知っている
- 10. お昼寝時に子どもの胸と腹部の動きで呼吸を確認できている

講習を受講していない保育士の救命救急法について

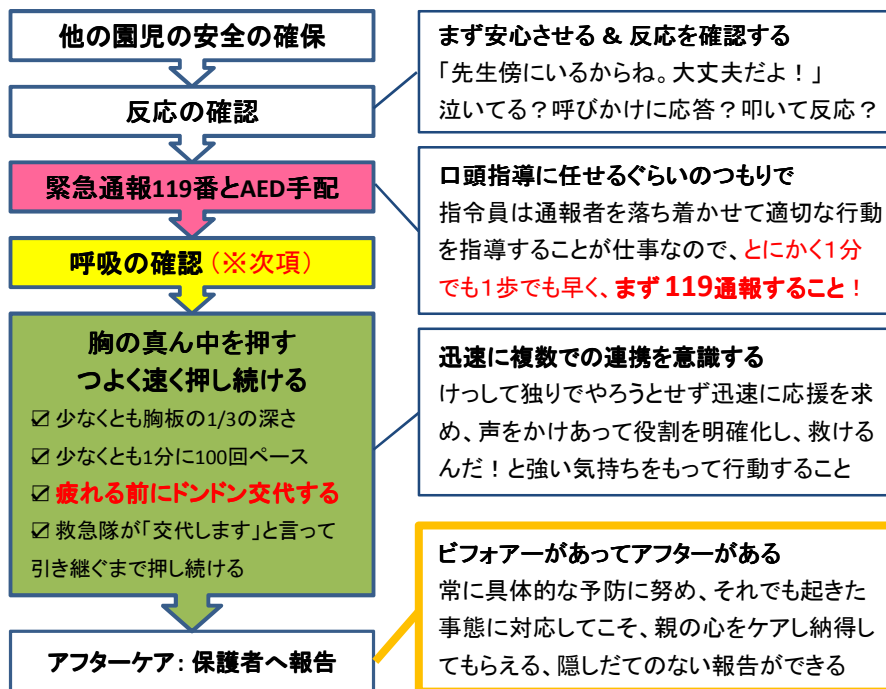
■ 引用:「訓練を受けていない救助者は、119番通報をして通信指令員の指示を仰ぐべきである。一方、通信指令員は訓練を受けていない救助者に対して電話で胸骨圧迫のみのCPRを指導するべきである。」

心肺蘇生法日本版ガイドライン2010より

心肺蘇生法のガイドラインから分かる救命救急法のポイント!

- 人工呼吸は難しく、胸の真ん中を押し続けるだけでも効果がある
  - 通報すれば全て口頭指導が受けられるので早く通報した方がよい
- ※講習を受け適切に人工呼吸できるようになることが推奨されます!

★ 未受講の保育士でもできる救命救急法の手順とキーポイント



# 呼吸が弱々しくてあまり反応が見られない？

© 2011/作成・提供: 保育園心理士協会

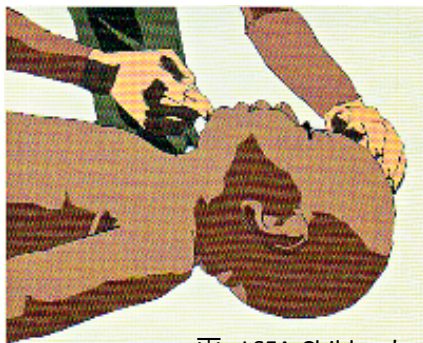
呼吸の確認(※)

あっ、呼吸してる！！  
でも、ちょっと弱いなあ・・・

声をかけても  
あまり動く様子がない

※119番はしたし、  
その救急隊が来るまで

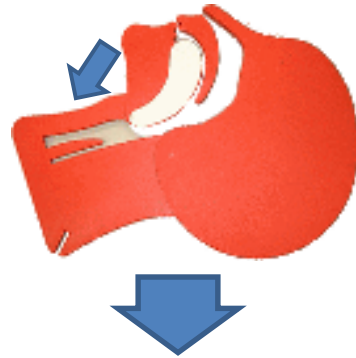
どうしたらいいんだろう・・・



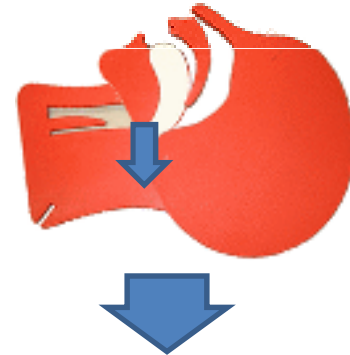
画: LSFA-Children's

■ このようなときは呼吸の通り道を確認することが有効です  
呼吸はしていても、反応がない、意識がないようなときは時間が経つにつれて呼吸の通り道が閉じる可能性があるため、息の通り道を保つサポートが必要

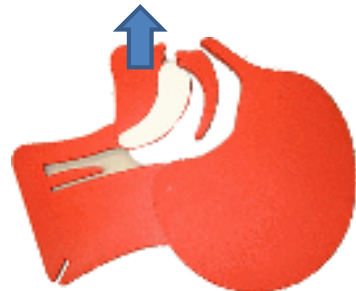
力が抜け徐々に下アゴが落ちる



下アゴと一緒に舌が落ちて呼吸の通り道を閉じて息ができない



下アゴを上アゴより前に出すように上に引き上げ通り道を確認



子どもが窒息事故を起こす最も多い原因は「ごはん」！

■ 保育園の給食やおやつなど食事時が最も子どものノドに異物が詰まっている事実を再認識しよう

1. 「ご飯(おにぎり含む)」
2. パン
3. お粥

「食品による窒息の現状把握と原因分析」より



画: LSFA-Children's

保育室の床に子どもが口に入れるような異物はない、給食にはノドに詰まる大きさのカたい食べ物等ないと安心して、無意識に目を離していませんか？

**窒息の解除方法を考えるより窒息をさせないことが最も大切！！**

■ 食べ物を噛み砕く咀嚼力が弱い乳幼児が多い保育園ではノドに詰まりかける姿を見かけた保育士も多いでしょう。その詰まる状況に疑問を感じ子どもが食事する環境をすことで安全が高まります。

クチに入れる量に気を配る

窒息に早く気づく

声が出れば見守る

職場仲間に緊急通報  
119番を依頼する！  
見守る間も傍を離れない

背中の肩甲骨を強く叩く  
叩いた振動で咳を促す

アフターケア: 必ず病院へ

固定観念にとらわれず個々のペースで準備されたままに食べさせずクチに入れる瞬間まで食べやすさの気配りが大切

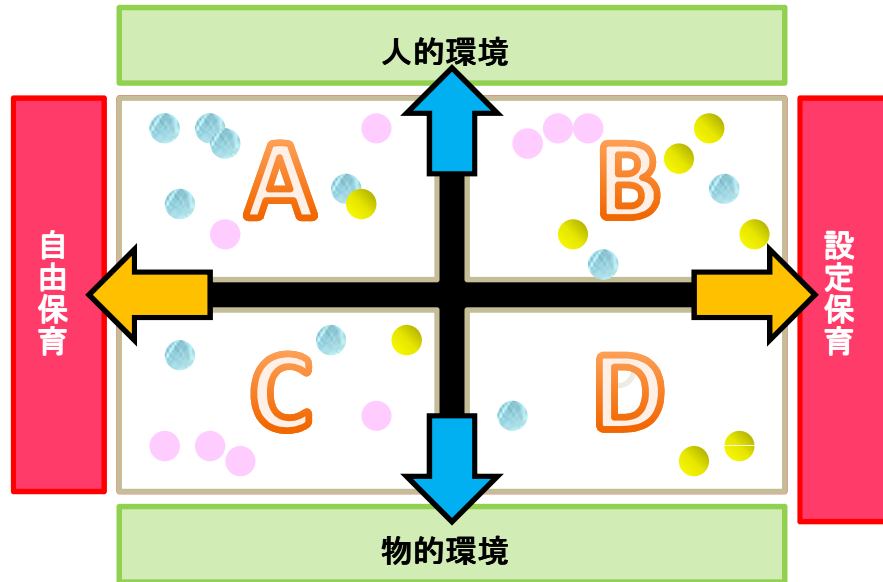
慌てて手を出さず力づよい咳は見守る  
声を出して反応したり咳込みに力強さを感じるなら見守ることも大切な選択のひとつ

軽く考えたり、何かしてからと思わない  
自分だけで何とかしよう、意識がなくなったら救急車を呼ぼうと考えず子どもに助けが必要だと感じた時点で119番通報！

元気だし大丈夫！そう思っても病院へ救急車が来る前に吐き出したし元気もあるし大丈夫そうに見えても必ず病院で確認を

■ 保育の不慮の事故を予防するには、まず一番に保育園職員と保護者が危険に対する立ち位置を共有することが大切

## 危険への認識と一緒にいない！ 危機管理の4つの思考ステージ



### 横軸:

- 右: 保育園職員が設定した園児の発達を促す環境をつくる
- 左: 子どもたちが内から発する欲求を優先した環境をつくる

### 縦軸:

- 上: 問題は人間関係を柱とした力で解決する
- 下: 問題は環境整備を柱とした力で解決する

### A. リスク・カバー:

子どもを主体にすえて大人と一緒にサポートし子どもの力で乗り越えさせる

### C. リスク・スルー:

よりよい発達のために、ちょっとした危険やケガぐらい問題とせず園児の自主性に任せる

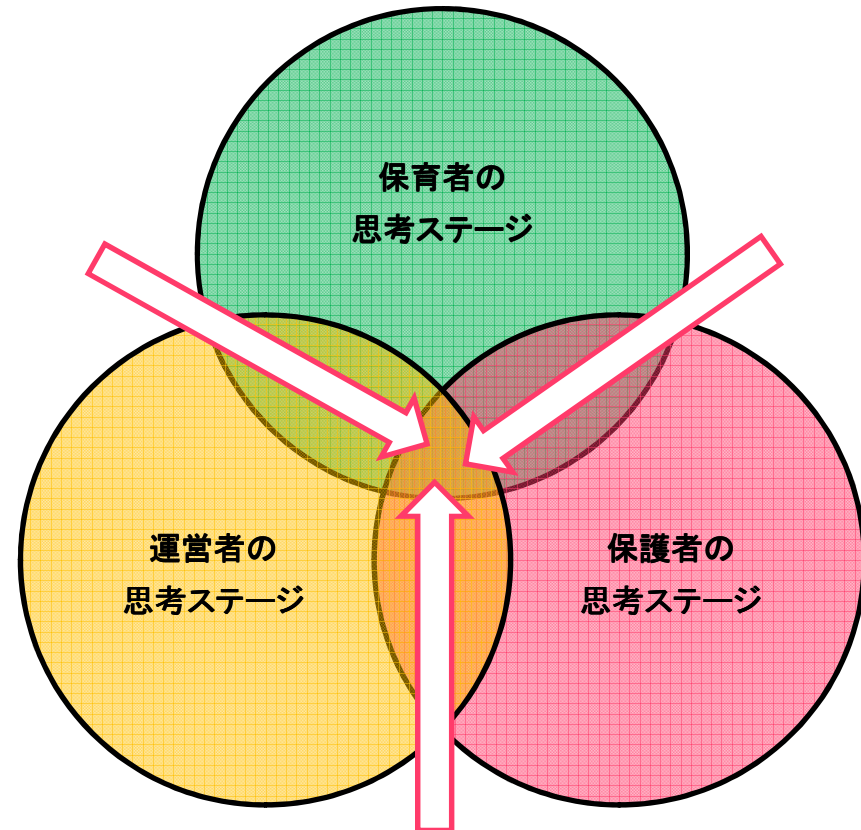
### B. リスク・チェック:

保育は安全第一！子どもに与えるモノは危険か危険でないかを事前に見極める

### D. リスク・バリア:

子どもの年齢や発達に合わないと考えた危険なモノに近寄らせない、活動は行わせない

## 危険への認識の違いを共有しあって安全とは何かを考える



### 物事の見方や感じ方で何が危険か何が安全か1つも同じはない

■ 子どもをどのように捉え、保育に何を望むかによって危険に対する認識は一人ひとり大きく変わってきます。危険とは何か？という認識を共有できたときに初めて、子どもの命を守ろう、保育園の事故をなくそうという想いに応える具体的な予防策が実現されます